



拠点形成研究交流報告：大学院生（修士課程2年）3名の短期留学

2018年2月21日~3月1日、カリフォルニア大学 Davis 校を訪問し、派遣されているポスドク 乙木由里香さんをお迎え、Ameer 助教授の研究室にて、自身の研究内容のプレゼンテーション及び研究室のメンバーとの交流を行いました。

アメリカへの訪問は4回目でしたが、研究の一環で訪れたのは初めてであり、今後の博士への進学に向け非常に刺激を受けるものになりました。今回のプレゼンテーションを通して【科学が万国共通の言語】だという言葉に改めて実感しました。英語に自信がなかったため、話す一語一句や発音を完璧に諳んじなければならぬと考え、不安な気持ちになっていました。しかし、Ameer 助教授をはじめ、研究室の皆さんは真摯に私のディスカッションを聞いて質問や意見を投げかけてくださり、自身の研究を世界中の方と共有できることに対し、今までに味わったことのない楽しさやワクワクする気持ちがこみ上げてきました。このような機会を与えてくださった拠点形成事業の関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、将来海外に出るためにも研究・語学共により一層邁進したいと考えております。

農学研究科修士2年

機能分子解析学分野 板谷麻由子

オランダの研究拠点であるワーゲニンゲン大学へ2018年3月12-16日の間訪問し、Michiel Kleerebezem 教授・Peter van Baarlen 准教授（Host-Microbe Interactomics グループ）、Ole Madsen 助教（Animal breeding and Genetics グループ）、Vincent de Boer 助教（Human and Animal Physiology グループ）との研究討議を行いました。私は、現在ニワトリのミトコンドリアについて研究しており、今後は代謝物などを網羅的に解析する「オミクス解析」を自身の研究に取り入れたいと考えております。先生方との研究討議では、これまで私が行ってきたミトコンドリア研究について様々な角度からの質問・意見を頂くことが出来ました。



また、オミクス解析について、基本的な概念から実施に関する応用的な助言もたくさん頂くことができ、非常に実り多い訪問となりました。今回の訪問で知り合うことが出来た先生方との交流を続け、共同研究などに発展させていきたいと考えております。この度、このような機会を提供して頂きました研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝いたします。

農学研究科修士2年

動物栄養生化学分野 袴田祐基

私はこれまで日本でエピジェネティクスについて研究を行ってきました。エピジェネティクスとは真核生物の様々なゲノム機能を制御するシステムであり、多くの高次生命現象の根幹にある分子機構です。これに対して、ワーゲニンゲン大学の Geert 教授は魚類における免疫応答の分子機構についての研究を行っており、エピジェネティック制御がこの基盤を担っている可能性を考えています。そこで我々の研究室との共同研究として、免疫とエピジェネティクスの関係を解析しています。私は昨年秋から先んじて当大学に派遣されていた本研究室所属の横山を交え、研究についての討論を行うとともに、ワーゲニンゲン大学の大規模な動物実験施設を見学しました。成果として、今後の研究方針をより明瞭に策定することができました。また、アニマルサイエンスに注力している当大学の広大な研究施設では様々な実験動物や最先端の機材が運用されており、その規模は圧巻でした。本事業によりこのような有意義な訪問を行う機会を頂けたこと、深く拝謝申し上げます。



(写真：Geert 教授に夕食をご馳走になった際の写真、
左から Geert 教授、Maria 博士、Danilo 博士、横山、高橋)

農学研究科修士2年

分子生物学分野 高橋大輔